

西公民館

遊びゲーシヨン松前っ子

去る11月17日(土)、松前公園体育館で松前校区の幼児、小学生を対象としたゲーム大会が実施されました。

会場には、愛護部の役員さんの手作りのゲームコーナー(割りばしダーツ、1分間鉛筆立て、豆つまみ皿うつし、ちらし飛行機とばし、長靴とばし、ボーリング、点取りピンポンのコーナー)が設置されました。

▼豆つまみ皿うつし



地域別に整列した子どもたちは、ゲームごとに説明を受けた後、ゲームに挑戦し、記録表に得点を記します。お友達と手をつないで移動

▼点取りピンポン



動する子、走り回って場所を確保する子、お父さん、お母さんにつられて移動する子...。280名の参加ですからにぎやかです。成功するたびに歓声がわき起こるコーナー、真剣で一心不乱、物音一つ聞かないコーナー、どのコーナーの子どもの目も輝いています。7種目のゲームをクリアした子どもたちは記録用紙を提出します。

ここからは本部役員さんたちの順番です。

自分の順位が気になって、何度も本部へ顔を出す子、2度目のゲームに熱中する子、ゲームに疲れてフロアに寝

▼1分間鉛筆立て



ころんでいる子、さまざまです。2時間半があつという間に過ぎました。

閉会式での個人得点発表では、拍手が起こり、ガッツポーズが見られました。幼児・低学年、中学年、高学年に分かれて、それぞれ7位までの入賞者には賞状と賞品が贈られます。また、参加者全員に大きな袋に入ったお菓子が配られます。子どもたちにとっては、異年齢の人々とのふれあいや工夫して遊ぶ楽しさ、むつかしさなどのすばらしい体験ができました。本当に有意義な半日になりました。

これも、本部役員の方々、地区役員さんの献身的なご協力のおかげと感謝しています。

ふるさとをたずねて

幟内の由来

松前町文化財保護審議会長

戒田光一

金蓮寺の東方に「幟内」という小字(今は登り内)がある。(これは耕地整理後ホノギが統一されたことによるものと思われる。)

ここは東古泉分で、筒井と西古泉に挟まれた形になっている。(付図参照のこと)

ここ東古泉では端午の節句に内幟を立て、決して外幟を立てない風習がある。

これは、慶長5年(1600)関ヶ原の合戦の時、正木城主加藤嘉明は徳川方(東軍)に味方して出陣した。豊臣方であった者が寝返つたと怒り、留守をねらつて中国の毛利勢は攻めて来た。

(三津刈屋畑の戦いの時) 嘉明は主力を率いて関ヶ原に出征し、留守を守る佃一成はわずかの兵力なので交戦するのは不利と考え、武器を地中に埋め、城門を開放し、城の東方の地即ち「幟内」(登り内)に旗、差物を倒し、伏兵の布陣をし、敵が上陸来襲して来たら沼地に引き入れ決戦しようとしていた。

しかし、毛利勢も城内が静

かであり、何か計略があると思ひ攻撃をためらつてい時、関ヶ原で西軍が大敗したということが西国に伝わり、毛利勢は戦わずして引き揚げた。

それで正木城も一兵も損せずことなきを得た。

このことから、佃一成が旗印を倒し陣をしいた地を「幟内」と呼ぶようになり、東古泉では男子出生、即ち端午の節句の祝いに内幟を立て、門外に幟を立てない。この風習は、佃一成の智略を思い内幟を飾り、武運長久を祝福するのだと言われている。

